

# 私は聴こえません。

## 該当質問を指して下さい。

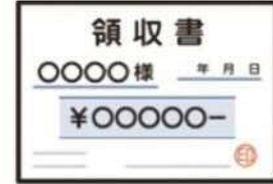
袋はいりますか？



同じ袋に入れても  
よろしいですか？



領収書は要りますか？



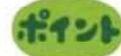
カードは  
一括払いですか？



ポイントカードは  
持っていますか？



ポイントを使いますか？



ポイントカードを  
作りますか？



画面にタッチ  
してください



お箸はいりますか？



あたためますか？



ご自宅用ですか？



お持ち帰りの時間は  
どれくらいですか？



保冷剤は  
いりますか？



飲み物はホットですか？



アイスですか？



飲み物の大きさは？



# ありがとうございました

© 2019/7/17 19:10 神戸新聞NEXT

## 質問“見える化”で聴覚障害者を支援へ 加東のコンビニ



コンビニエンスストアに配られた「コミュニケーションシート」=加東市松尾



耳の不自由な人を支援しようと、兵庫県加東市は市内にある21カ所のコンビニエンスストアに簡易な質問と絵柄を記したA4判の「コミュニケーションシート」を配布した。情報を絵にすることで理解を助ける試み。市社会福祉課は「ちょっとした音の情報を『見える化』することで、助かる人も多いのでは」と話す。

兵庫県聴覚障害者協会（神戸市中央区）によると、医療機関や公共施設では同様のシートを利用する例はあるが、コンビニでは珍しいという。

加東市は2014年、近畿の自治体で最初に手話言語条例を成立させた。手話を言語と位置付け、耳の不自由な人が暮らしやすい環境を整えるのが目的だ。制定後、市は職員向けの手話講習会を開き、全国手話研修センター（京都市）の手話検定2～5級を取得した職員は約40人に上る。

シートの配布は、市社会福祉課の手話通訳士、山田美香子さんが提案した。筆談や手話を操る聴覚障害者の知人が「世界で最も緊張するのが日本のコンビニ」と漏らしたのがきっかけだった。顧客が後ろに並ぶ緊張感の中、レジで店員の言葉を瞬時に理解する

のが難しいという。

市はこの提案を受けてシートを作成し、市内のコンビニ21店に配布した。

「弁当を温めますか」「支払い方法はどれですか」など五つの質問のほか、はしやスプーンの絵を描き、指させば通じるようにした。市内でベトナム人や外国人が増えていることから、質問集には英語とともにベトナム語も併記した。

山田さんは「条例制定から5年となり聴覚障害者への理解も進んできた。障害者に優しいまち是谁にとっても優しいまち。支援の輪を今後も広げたい」と話している。

（中西大二）